



図II-4-9 センサー子機（左）およびセンサー親機（右）の外観

# 障害者自立支援機器等研究開発プロジェクト

## 分担研究報告書

### 障害者による臨床評価

研究分担者 中山剛、乙川利夫、世古三菜子、清野佳代子、加藤誠志、井上剛伸

#### 研究要旨

障害者自身はもとより家族や介助者にとっても社会福祉の観点からも障害者が在宅で自立・自律した生活ができる環境は豊かな人生を送る上で重要である。近年、情報技術やセンサ技術の進展により、障害のある居住者と住空間のインタラクションを実現し、住空間全体を総合的に制御する可能性が示されている。本研究の目的は、多様な障害者のニーズとこれらの技術のマッチングを図り、住環境の高度技術化により、障害者の自立・自律生活に積極的に貢献することである。対象ユーザは、脳卒中等の後遺症のある人、発話障害を伴う高齢の脳性まひ者、視覚障害者とする。脳卒中等の後遺症のある方の脳障害により家事が困難になる問題、発話障害を伴う高齢の脳性まひ者の住環境設備の操作の問題、視覚障害者の家庭用品の管理の問題に焦点を当てて支援研究を行った。本分担研究では障害者による臨床評価を目標とし、そのための方法や評価指標の検討と選定、臨床評価の現場となる国立障害者リハビリテーションセンター内の障害者用モデル住宅の評価と改修点の抽出を実施した。加えて、特に評価指標の定まっていない家事動作を例としてシミュレーションを行い、選定した評価指標の一つであるAMPS (Assessment of Motor and Process Skills) を利用して予備評価も合わせて実施した。

#### A. 研究目的

障害者自身はもとより家族や介助者にとっても社会福祉の観点からも障害者が在宅で自立・自律した生活ができる環境は豊かな人生を送る上で重要である。近年、情報技術やセンサ技術の進展により、障害のある居住者と住空間のインタラクションを実現し、住空間全体を総合的に制御する可能性が示さ

れている。本研究の目的は、多様な障害者のニーズとこれらの技術のマッチングを図り、住環境の高度技術化により、障害者の自立・自律生活に積極的に貢献することである。脳卒中等の後遺症のある方の脳障害により家事が困難になる問題、発話障害を伴う高齢の脳性まひ者の住環境設備の操作の問題、視覚障害者の家庭用品の管理の問題に焦点を当てて支援研究を行う。